



本日のKey message

苦しんでいる人は自分の苦しみをわかって
くれる人がいるとうれしい。

この言葉は、人生の最終段階にある人への援助に限った話ではありません。

「自分が苦しい時、自分の苦しみをわかってくれる人がいるとうれしい」です。

日常生活において、友人関係、職場関係、夫婦関係、親子関係の中などでも共通する大切なテーマです。

本当に苦しみを聴けていますか？

苦しみに気が付くには感性が必要

人は相手をわかったつもりになった瞬間から
相手の話を聞かなくなります。

そして、自分が良いと思う事を
相手のためになると決めつけてしまいます。

医療・介護従事者に多いブロッキング

- 患者が何を求めているかを把握しないで、**一方的にガイダンス**をする。
- 興味や関心のあることには**質問**したくなる。
- 間違った考えや行動をしていると**意見**を言ったり**怒り**たくなる。
- 自分が正しいと思う方向に**誘導**したくなる。
- 一般的な医学的常識に基づいた思い込みや勝手な**解釈**や**憶測**で話をする。
- **指導的**な立場で、上から目線で話をする。
- 医学的・薬学的な**価値観**を押し付けたくなる。
- 治療への意欲が少ないと思うと話す気がなくなる。

主語は患者さん！！
これを忘れない！

理解するよりも理解者になること

- ① 私が相手を理解しようとする事は大切。
- ② でも、私は相手を100%理解することはできない。
- ③ しかし、相手が私を「自分の理解者」だと思ってくれる可能性はある。
- ④ **苦しんでいる人は、自分の苦しみをわかってくれる人がいると嬉しい。**
- ⑤ どんな私であれば、苦しんでいる相手から見て「わかってくれる人」になれるか。
それは「**聴いてくれる私**」である。

援助的コミュニケーションとは？

詳しく学びたい方は・・・
エンドオブライフ・ケア協会まで

**人生の最終段階（エンドオブライフ）をケアできる
 人材育成プログラム**





ホームページ



YouTube
(東大阪プロジェクト)



Facebook

東大阪プロジェクト
チャンネル登録をお願いします！

ぜひ、ご視聴ください♪

ご清聴ありがとうございました。

